

COVID-19 のパンデミックにおける 国際交流活動

中川 康江 (Yasue NAKAGAWA)

鳥取看護大学 看護学部看護学科

はじめに

近年の1か月未満の日本人留学生の数は、2004年には5,924人から2017年には39,202人¹⁾と増加し、年々国際交流活動が活発化していた。

しかし、2019年のCOVID-19の流行をきっかけに、日本人留学生数は、2019年の77,953人が、2020年度には18,374人に減少²⁾していた。本学でも学術協定を結んでいるサント・トーマス大学（フィリピン・マニラ市）と2週間の看護短期研修を行っていたが、2020年度は直接訪問することができなかった。このため、お互いの教職員と学生がエールを送りあうビデオメッセージの交換を行った。そして本学からは、横断幕にメッセージを記述したプレゼントも行った。このように直接留学という形の交流ができなくても、Webを用いての交流は、本学のみならず各国でも盛んに行われるようになった。令和3年度「日本語教育推進会議」³⁾でも報告されていたが、日本語教師の資格に関する検討、国際連携教育課程制度の見直しなど、ポストコロナを見据えた検討事項も多く持たれている。このように、COVID-19のパンデミックにより直接交流がかなわないというデメリットが生じた半面、Webでの交流の活発化、今まで曖昧であったシステムの検討・活性化などのメリットも生じている。現在本学でも模索をしている新しい国際交流方法も、ポストコロナが元通りの活動に甘んじることなく、より幅を広くした新たな交流方法を広げていく機会になると考えている。

本学の国際交流活動は、本年こそサント・トーマス大学との直接の交流を目指していたが感染症の流行は収まることなく、2021年度もWebでの国際交流を図ることとなった。そして、2021年度内に複数回の活動計画の変更も余儀なくされた。しかし、Web上ではあるが、サント・トーマス大学と共に繰り返し計画の変更をしたことは、一つの共同作業として、国際交流活動を行う上で基盤となる関係性の構築につながった。直接訪問しあうことはできなくても、計画の変更には、相手の状況を配慮する気持ちが求められ、Webでビデオ作成して送りあう際には、相手国の文化や生活を学ぶ機会となるのみにとどまらず、相手の国に自国の紹介をするために自身の国の言葉や文化を再学習する機会にもなった。これは本学学生とサント・トーマス大学双方の学生が、それぞれの国内に待機しながら、今後の国際交流活動に対する内的動機付けをさらに強めていく働きかけにつながったと考えている。

このような本年の活動状況を再度振り返ることで、今後不測の事態が生じた際の国際交流活動に活かせるものについて、分析および検討したことを報告する。

1.活動状況

(1) 2021年度の活動計画

昨年度のCOVID-19流行の状況より、年度当初より、2案の計画を立てていた。

1案目は、2019年度以前のように、互いの学生たちが双方の大学へ訪問する短期看護研修を

行うことを含んだ案であった。2案目は、2020年度同様に短期留学という直接の交流を含まないWebを用いた交流を行う案であった。

日本では表1のように4月から6月の段階は第4波といわれる状況となった。このため、4月末において2021年度の活動計画は、2案目が採用となった。

表1 日本の第4波の状況

時 期	感染者数(名)	緊急事態宣言
2021年4月25日	4,599	6都道府県
2021年5月23日	4,030	10都道府県

(2) 2021年度の活動結果

4月末にサント・トーマス大学の国際交流委員長と相談のうえ、具体的に表2のような計画を立てた。計画については、その後も年間を通して、それぞれの国のパンデミックの状況と対応策に応じながら、国際交流委員長同士を通して、6月にWeb会議を行い、その後も約1か月ごとのメール会議を持つことで年間を通して計画の修正を行って活動を続けた。

表2 2021年度の活動計画（4月末現在）

内 容	代 案
1) サント・トーマス大学の学生受け入れ 2) サント・トーマス大学への短期看護研修の準備及び実施 3) 海外の看護系大学の先生方の講演会開催 4) 国際交流財団との協働の試み 「グローバルまちの保健室」の開催 5) サント・トーマス大学からの提案で8月に行われるサント・トーマス大学の国際交流ウィークで、本学の国際交流活動を紹介	1)、2) においてはWebでビデオ交換を行い、それぞれ見たものについての感想のビデオ交換を行う

○活動計画案1)、2)、3)、5)について

日本では、10月から12月末まで第5波と第6波の間に一旦感染症の流行は落ち着いた。この合間を縫って、国際交流委員のメンバーは9月に、写真1のポスターを作成・掲示し、国際交流活動に参加してくれる学生を募り、ビデオ撮影を行ってくれた。参加に応じてくれた学生たちも、実習や学習の合間を縫いながら、楽しそうに、パンデミックにおける学修状況、余暇の過ごし方、日本特有の行事などを、ダンスなどのパフォーマンスを交えながら、時には英語を交えながら紹介してくれた。こうして本学では年間計画の予定通り10月末に、学生が参加して作成したビデオの編集をして、送ることができた。写真2から6が、送ったビデオの一部である。写真のように、日本の文化を意識したデザイン、看護を学ぶ姿、大学生の生活の姿を映したビデオが出来上がった。送ったビデオに対して、サント・トーマス大学の国際交流委員長より、「大変気に入った。素晴らしい。」というお礼のメールが即座に届いた。しかしフィリピンでは、その後もその後も感染症の状況は改善することなく、8月に入ってからロックダウンが継続している状態となった。ロックダウンが継続されている状況のフィリピンでは、8月に予定されていた「サント・トーマス大学の国際交流ウィーク」も中止となった。「サント・トーマス大学の国際交流ウィーク」では、本学の状況を紹介してほしいとビデオでの参加を招待されていた。しかしそれもキャンセルとなった。そしてサント・トーマス大学の国際交流委員長からは、パンデミッ

クによって生じた影響に対応するため、「大学での仕事がとても忙しい」というメールも届いた。このため、計画 3)の海外の看護系大学の先生方の講演会開催は中止することとした。また、フィリピンで続くロックダウン状況下においては、サント・トーマス大学の学生たちの招集はできない。このため、サント・トーマス大学の国際交流委員長より、「年度当初に予定していた日程でのビデオの撮影が進まない」と、8月、11月、1月と「いつまでなら待ってもらえるか」「謝らなくてはいけない」という活動計画遂行における遅延の連絡と謝罪に関するメールが送られてきた。しかし1月のメールには、「来年度こそは直接交流をしよう」というメッセージも含まれていた。

日本では、当初ビデオ上映を予定していた10から11月頃はいったん感染状況も落ち着いていたため、本学の学生たちは、サント・トーマス大学からのビデオ上映を期待していた。特に、サント・トーマス大学宛のビデオ撮影に参加してくれた学生たちは、サント・トーマス大学からのビデオが来ることを心待ちにしていた。このため、国際交流委員会のメンバーは、ビデオ撮影に協力してくれた学生をはじめとした、本学の学生達の国際交流に対する意欲を保つため、サント・トーマス大学から延期のメールをもらう都度に、国際交流委員会のメンバーで、上映期間をはじめとする対応策の検討を行い、学生達へも変更の周知を行った。そして、ビデオ撮影に協力してくれた学生の意欲を喪失させないために、ビデオ撮影への参加を労うことにも配慮をした。2022年1月現在では、2022年度の新年度のオリエンテーションで、サント・トーマス大学から送られてくる予定のビデオ上映を行うことを目標にしている。また本学の教員へは11月末に、フィリピンの感染状況の報告と共に、国際交流活動における年間計画の変更の報告と、本学の学生が撮影に参加して作成して、サント・トーマス大学に送ったビデオの上映を行い、学生たちの活動を披露した。

○活動計画案 4) について

本学では、「多文化共生の社会づくりを目指し、…国際性豊かな県民の育成と地域の活性化を…」⁴⁾ 図っている公益財団法人 鳥取県国際交流財団と連携・協働をしている。

しかし2020年度に続き2021年度も、国際交流財団ではパンデミックに伴う影響のため、ほとんどの活動が中止となった。イベントが中止になったなかでも、本委員会では国際交流財団との情報交換は継続していた。国際交流財団は、一連の行事の再開のタイミングを計り続け、ようやく国際交流財団の活動を再開しようとしていた年末から年明けにかけて再度感染が広がり、計画の中止・延期が再度行われた。このため、本学と国際交流財団との協働も、7月に国際交流委員のメンバー2名が、日本語クラスのスピーチコンテストの見学に参加した以外は、相互の情報交換が主な活動となった。

2021年度の本学の国際交流委員会の2022年2月現在の活動状況を、表3に示す。

表3 2021年度の活動状況(2022年2月現在)

時 期	活 動 内 容
4から6月	1)、2)について、メール・Web会議をサント・トーマス大学と持ちながら模索、本年は代案で交流を行うことに決定。
7から8月	4) 7月に国際交流財団主催の日本語クラスのスピーチコンテストの見学。 3)、5)について、サント・トーマス大学よりロックダウンによる国際交流ウィーク自体の中止の報告と、本学とのビデオ交換の続行と提出・上映期間の確認。

9 から 10 月	5) 本学での学生のビデオ撮影と編集。 10 月末にビデオをサント・トーマス大学へ送信。
11 から 1 月	5) サント・トーマス大学より、感染状況の改善がなくビデオ作成が遅れている断りの連絡が1ヶ月ごとに来る。このため11月に予定していたビデオ上映会を次年度4月のオリエンテーションで流すことに変更した。またビデオ撮影に協力してくれた学生への労いと、学生の活動を教員へはビデオの上映とともに報告をした。
2 月	1)、2) サント・トーマス大学よりビデオメッセージが到着し、現在4月の上映に向けて編集作業中である。

【ビデオ撮影参加募集ポスターと送ったビデオより】

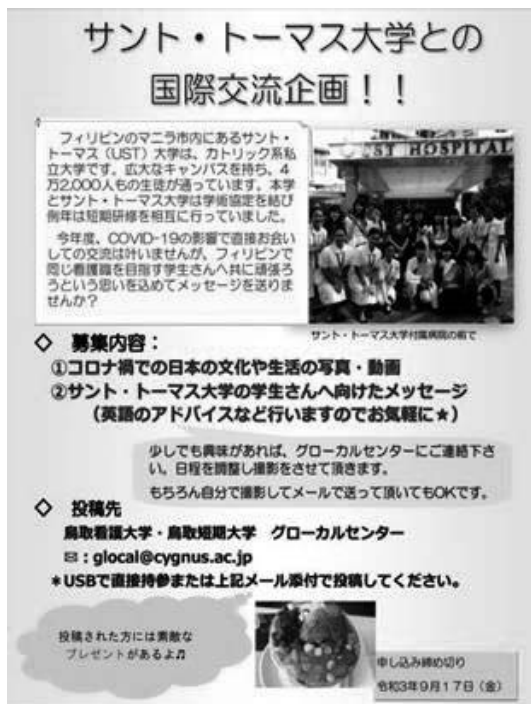


写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5



写真 6

2. 2021 年度の活動の振り返り

感染症の流行のみならず、人と人との交流において想定外の状況はいつでも考えられる。そのような状況の中において、代案を用意しておくこと、新しい方法を模索する楽しみを感じることの大切さを学んだ。

本年度の活動において、2案を用意していたことは活動の進行に混乱を生じることを避けることができた。また、その後も流動的な状況の中、国際交流委員会のメンバーは、昨年の Web 交流の経験をもとに、工夫を凝らしたビデオの作成を楽しみながら活動を行ってくれた。学生たちも、自身の実習等の学修が流動的で不安な状況であったにもかかわらず、国際交流活動に参加してくれた。学生たちは自分たちと同様、またはそれ以上に状況が悪化しているセント・トーマス大学の学生達へエールを送りたい、と自分たちの経験を踏まえて、相手を思いやる気持ちをもってビデオ撮影に参加してくれていた。そして、この学生たちの思いに国際交流委員会のメンバーも応えて、協力してくれた学生への労いなど、学生の士気向上への配慮の気持ちも忘れることがなかった。このように、流動的な活動を余儀なくされることに共同で対応することは、相手を思いやる気持ちの連鎖を生じさせたと考えている。そして、この思いやりの気持ちの連鎖は、国際交流活動に欠かせない関係性の構築にもつながったと考える。セント・トーマス大学の所在するフィリピンでは、数か月にもわたるロックダウンが継続されるなど、感染症の流行による生活への影響は日本以上の状況であることが推察される。そのような状況下において、セント・トーマス大学の国際交流委員長は Web 会議の企画を提案してくれたり、言いくいであろう計画変更のお詫びのメールを3度も送ってくれた。これも、お互いの大学同士の関係性の構築を図ることができたことの証しではないか、と考えている。この「相手を思いやる姿勢」は、看護を学ぶ双方の学生にとって大切な姿勢である。

2021 年度の国際交流活動では、計画通りの活動や、直接交流ができなかったという一見デメリットな状況から、図らずも私たちは「相手を思いやる」という大切な学びを得ることができたといえよう。この双方の学生と国際交流委員の思いやりの気持ちの積み重ねから、国際交流委員長同士での「次年度こそ直接お会いして交流を深めよう」という約束の言葉が自然に生じたと考えている。計画の再検討が重なる中でも、双方の大学が学生たちに交流の機会を持たせたいという共通の目標があったため、直接会ったことはなくても、Web 会議やメールでの打ち合わせを繰り返し行うことができたと考えている。

2021 年度のように、流動的に年間の活動計画を変更しながらも、その都度学生たちへ連絡を取りながら継続して行った国際交流委員会の活動の姿は、学生たちの国際感覚を学びたいという内発的動機につながったのではないかと考えている。これからも人と人との交流を、国や文

化が異なっても楽しんで学んでいけることの喜びを、学生たちに伝えていきたい。

3. まとめ

- (1) 活動計画案は、流動性を持たせておくのが望ましい。
- (2) 活動を行う際には、共通のビジョンを有することが重要である。
- (3) 相手へ寄り添う気持ちは、国は違っても人との交流において基本となる。

謝辞

国際交流を通じて、人と人との交流の喜びを教えてくれた鳥取看護大学の国際交流委員会のメンバーと、ビデオ撮影に協力してくれた鳥取看護大学の学生、サント・トーマス大学の国際交流委員会のメンバーに感謝を伝えたい。

<参考文献等>

- 1) education-career.jp > Home > データ/レポート > 2019 日本人学生の海外留学者数の推移まとめ! (2022.01.07 閲覧)
- 2) www.jaos.or.jp > newsrelease、広報・リリース | JAOS 一般社団法人海外留学協議 (2022.01.07 閲覧)
- 3) 令和3年度「日本語教育推進会議」資料、日本私立大学団体連合会 国際交流委員会 日本語教育推進運営委員会、令和4年1月18日開催会議資料
- 4) www.pref.tottori.lg.jp > secure > 07_keiei、公益財団法人 鳥取県国際交流財団経営状況報告書(2022.01.31 閲覧)